

令和4年度 あしかりこども園 自己評価



1. 保育方針

愛情につつまれながら安心して生きる力を育む養護と教育

2. 保育目標

㉠ 明るく	㉡ しっかり	㉢ のびのびと生きる	㉣ 心豊かな子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔あふれる子ども ・心身共に健康でたくましい子ども ・みんなと力を合わせてやりとげられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な挨拶と返事ができる子ども ・最後まで一生懸命取り組める子ども ・よく聞き、自分の気持ちを伝えられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の事は自分でできる子ども ・自然に親しみ感謝する子ども ・なんでもよく食べ、力いっぱい遊べる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を通して郷土を愛する子ども ・優しく思いやりのある子ども ・個性豊かに自分を表現できる子ども

3. 重点目標と評価

重点的に取り組んだ目標	評価
<p>【異年齢児交流を通して自己肯定感を育む】</p> <p>令和5年度からの3歳児4歳児混合クラス開始に向け、異年齢児交流や教育・保育の進め方について話し合いを実施してきた。全体的にひと学年の年齢の差ではお互いが年下、年上という意識が持っていないようにも見えた。また、遊びの時間(午前中)だけ、週に1~2回交流を図ってもなかなか関わりが見受けられない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登園から降園までを長期的(一週間)に過ごしていく中で、身辺整理や食事、排せつ時のマナーなど、年中児が自立している部分を年少児が真似て実行したり、危険なことをしようとする年少児の姿を見て優しく声をかけたりと積極的なかわりがみられた。新年度からの混合クラスへの移行に高い期待が持てる。

<p>【ウィズコロナへ向けての取り組み】</p> <p>感染予防対策を行いながら、園児の主体的な学びや体験を計画し、保護者や園児自身が成長を実感できる取り組みを行っていく</p>	<p>・感染状況を考慮しつつ、基本的には行事の再開を前提として計画を立ててきた。4月バス旅行(以上児対象)が園児のみに変更、6～7月プール遊び中止以外は保護者参加型の行事は人数を制限したものの、計画通りに実施。特に外部講師や地域の方との交流事業が再開できたことは園児の経験値の向上に繋がり充実した時間となったと思える。</p>
<p>【園児の人権擁護について】</p> <p>園児とのかかわりの中で、子ども一人一人の人権を尊重し、教育・保育ができてきているかを学期ごとに保育者自身が振り返る。反省点は改善をしていく機会となり、より良いかかわりとなって、教育・保育の質の向上につなげ、園児一人一人が尊重され、自己肯定感を高めていく。</p>	<p>・園児一人一人の人権を尊重するかかわりができているか、自分自身を振り返るためのチェックリストを実施し、第三者から助言や評価を受けることにより、不適切な保育につながる言動がないかを全職員が確認した。なぜ不適切保育が発生するのかを考えることにより、未然に防ぎ、今後も子どもの利益を最善とする教育・保育を目指す意識づけができた。</p>

4. 評価項目の達成及び取組状況

	項 目	取組状況	評 価
教育・保育内容について	<p>◎未満児では、担当する保育教諭との信頼関係の下、情緒の安定、安心して過ごせる関係性と環境づくりを大切にする。</p> <p>◎配慮を要する子どもだけでなく、誰もが分かりやすく行動でき、落ち着ける環境と一人一人の興味・関心が深まる遊びを展開していく。</p>	<p>○自分と他者との違いを意識し始める時期に、家族以外の者からも愛されているという実感を得られるようにするために、スキンシップやふれあいを深める。</p> <p>○絵カードや砂時計など、見て分かる素材を用意し、環境を整えることで、自分でできたという喜びや充実感を得る。</p>	<p>・担当する保育教諭が一人ひとりとしっかり向き合える職員配置を行い、スキンシップや関わりを大切にしていくことで「自分」を出せる関係性の構築ができ、安心して園生活を送ることができていた。</p> <p>・自分でできることを繰り返し体験することで、自立心が芽生えてきた。</p> <p>・一人一人の個性を大切にしつつ、安定した園生活を保障できるように心がけているが、更に関わりの工夫も必要であると考えている。</p>

食育について	◎野菜の栽培、クッキング、味噌づくりなどの食育活動を通して、食への関心を深め、食事を楽しむ。	○様々な制限や感染予防対策を講じながら食育活動の再開を行った。時代の流れと共に食文化が変化し、家庭での食生活が衰退しているといわれている中で、健康な心と体作りが食と大きな関係がある事を園児や家庭に伝え続けていく。	・マスク着用が続いているために、乳幼児の咀嚼指導、給食を子どもと一緒に食べていないことで、おいしさや味の共感などができにくくなっている。コロナ禍の代償が大きく影響している部分の一つと言える。ただし、今年度はクッキングを中心とした食育活動が再開でき、2歳児クラスから食への関心を高めていくことができた。
安全について	◎災害時の引き渡し訓練を行い、有事の際、安全に保護者などに園児を返すマニュアル作成と職員のノウハウを身につける。	○園児と保護者が参加をし、災害発生→園からの一斉配信→迎えに来る保護者などの誘導・受付→引き渡しの流れを実施する。	・マニュアルでは気づき得なかった事項が、打ち合わせの時点から分かり、実施後の反省や保護者目線の気づきを反映してマニュアルの再作成ができた。また、予測不能の事態が発生する事を予測して、柔軟に対応する力を養っていくことも課題であると考える。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な内容
異年齢児混合クラスでの、課題やメリットメリットや課題について情報共有、検討を行う	保育者が環境の構成や適切な援助を行い、年齢にかかわらず個々の発達を肯定的に捉え、園児同士のかかわりを深めていく。
小学校との連携と就学前に関する取り組み	5歳児の就学に向け、園児自身に期待と意欲が芽生えるよう、小学校との連携を深めながら情報提供と取り組みを行っていく。また、園児や保護者の就学に対する不安や疑問に応え、園と小学校とが連携をしていることを伝えて、安心して入学を待てるようにする。園での遊びの中での育ちが、小学校での学びと繋がっていくよう、子どもの関心や興味を広げていく環境づくりを行う。

園庭開放、子育てサロンを通じた地域の子育て家庭への支援

未就園児対象として、親子で過ごす時間と場所を提供し、乳幼児の育ちのサポートと保護者の子育て支援の拠点としての役割を果たす。

6. 園の運営について

まだまだ、感染の心配はありますが、園児がのびのびと活動でき様々な経験を積んで成長していただきたい。行事の際には、園児と保育教諭とが、信頼関係の下に目標に向かって取り組んでいる姿が見受けられ良い環境で園児が育っていると安心しています。昨今の不適切保育についてのニュースが全国的に流れ、マイナスなイメージで注目されていることに心が痛みます。一人ひとりの園児を大切に思い、保育者が心豊かに保育に向き合える職場づくりをお願いしたい。

令和5年6月10日

社会福祉法人 芦刈福祉会

理事 古川 恭子

7. 財務状況

令和4年度、あしかりこども園の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも正確であり園の運営、財政管理は適正に行われていると認められます。

令和5年6月3日

社会福祉法人 芦刈福祉会

監事 松枝浩二